



宮守インターチェンジ付近の建設風景

**問** 東北横断自動車道秋田釜石線開通後、地域経済に与える影響が懸念される。地域振興に対してどのような地域活性化対策を考えているか。

**答** 宮守インターチェンジ(仮称)は、平成24年度に開通予定であり、西の玄関口宮守町に關しては、指摘の通り中心部の交通量減少が予想され、危機感を持ってしている。現在、道の駅みやまもり周辺の地域活性化対策を「めがねばし周辺環境整備検討委員会」で進めている。今後はこの委員会を活用し、開通による影響を想定した新町商店街を含めた活性化対策の



## 林業振興対策について

多田 勉 議員 (清風会)

**問** 検討を進める。平成20年代後半に開通が予定されている遠野インターチェンジ(仮称)についても、道の駅遠野風の丘などの、魅力を高め集客を図る対策を進めていかなければならない。中心市街地商店街等への対策として、観光客を誘導し、商店街の活性化を図るため、中心市街地の魅力を高めるための拠点づくりを着実に進めている。

**問** 若者流出に歯止めをかける居住環境の整備は。  
**答** 市では、普通財産となった土地や、JA等から譲り受けた土地を分譲地として公売している。2ヶ年で3千2百万円の売却額となった。購入者の半数は若い世帯が購入しており、若者の定住促進につながっている。今後

も子育て健康住宅など企画住宅とセットでの斡旋提供、支援策の検討も含めて居住環境を整えたい。

**問** 市全体の83%を占める森林の、しいたけ原木に相応しいコナラを活かしたいだけ栽培をどのように考えているか。しいたけ関連施設の遊休化も予想されるが。

**答** 原木として民有林分収林約2百haあり、随時伐期を迎え、原木確保は好条件が揃っている。森林組合と連携し、森林所有者の意向調査を行い、原木を市内生産者が活用できるように生産振興を図っていく。過去に整備した施設45地区中、約6割25地区が現在も活用している。生産拡大で更なる有効活用を推進したい。